

卒業までの1週間 (Graduation week)

「中学校の卒業(式)」。確かに僕も、かつて学校に通っていた時期があったわけですけど、ニュージーランドでは、それは何か特別視されるようなことはありません。ですから当初、そうした考え方に違和感を覚えたことは確かです。でも今回、どんなものなのかを実際に経験してみた今、この行事のもつ美しさがよく理解できました。梶原学園の1年は、あっという間に過ぎていきました。生徒のみなさんや先生方を覚え始めたぞ、とっていたら、もうお別れを(とりわけ9年生に!)言わなければいけない季節になっていた、という感じです。卒業式に至



先生たちが座る席から、こんな風に卒業式をみていました。
卒業生にとっては、中学校生活の中でも本当に特別な数時間です。

るまでの時間……特に最後の1週間は、来たるべき別れに向かっての、完璧な道筋ができあがっていると思います。そして卒業式当日は、参加した誰にとっても、とても特別で、感動的なものでした。先生方と卒業生の間に結ばれていた絆をはっきりと目にすることができて、本当に感銘を受けました。

卒業までの1週間には、いろいろと忘れられないことがありましたが、僕にとって一番印象的だったのは、生徒集会での出来事でした。8年生と9年生が立ち上がり、「3月9日」を歌い始めたのです。9年生は8年生の前に立っていて、その時点では、全員が同じ方向(体育館舞台)を向いていました。ところが歌が始まった途端、9年生は8年生の方へ向きを変えて、対面する形をとったのです。歌いながら、どちらの学年の生徒たちも目に涙を浮かべていました……本当に美しい「別れのあり方」だったと思います。そしてそれと同時に、「最上級生としての責任」というバトンを、次の9年生に手渡している光景でもあるように、僕には感じられました。これって、素敵なことですよね!9年生は他にも、先生方と在校生のために謝恩パーティを用意していました。一方で9年担任の先生方も、卒業していく生徒たちのために、プレゼントを念入りに準備していました。その準備のささやかなお手伝いできたことに、僕は感謝しなければなりません。

9年生のみなさん。一緒に過ごせた時間に「ありがとう」と言わせてください。みなさんとの交流を通じて、僕は日本で初めての学校生活を送ることができました。みなさんが梶原学園での最後の1年の間にどれだけ成長したか。最上級生としてどれだけふさわしい振る舞いをしてきたか。そして、生徒同士だけでなく、先生方、そして僕自身とどのように関わりあってきたか……改めて振り返ってみると、本当に感慨深いものがあります。どうか、これからもお元気で。輝かしい未来がきっとみなさんを待っています!